



# 令和5年度 高鍋町の教育構想「たかなべ学校エンパワー事業」

※「エンパワー」とは  
力付ける、力を与えるの意



- 1 子ども一人一人の学力を伸ばすための「実効性のある」学校づくりの研究・実践
- 2 子どもの自己肯定感や自己効力感を高めるための特別支援教育・生徒指導の研究・実践
- 3 学校、家庭、地域が一つになって高鍋町全体で子どもを育てる連携の在り方の研究・実践

## (1) 授業力向上に向けた支援

- ① アップグレード研修、視察訪問及び実践報告会を通して、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。
- ② 計画訪問・ひなた授業づくり訪問等、県と連携した取組を実施する。



## (2) ICTを活用した学習指導の充実

- ① AI型教材(キュビナ)や授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」を活用した学習指導の充実を図る。
- ② タブレットの持ち帰り及び家庭学習への活用推進を図る。
- ③ 町教育研究所と連携し、ICT教材活用等の推進を図る。



## (3) たかなべ学力調査(標準学力調査)の実施と研修の推進

- ① 「段階評価方式」の学力調査を活用し、児童生徒の「自ら学びに向かう力」の育成を図る。
- ② 学級全体や個々の実態を把握し、学力を伸ばすカリキュラムマネジメントの実現を目指す。



## (4) 外国語教育の効果的な指導方法・指導体制の充実

- ① 小学校外国語専科加配(高鍋東小・高鍋西小)の配置による外国語指導の充実を図る。
- ② ALT(2名)の効果的な活用法の研究と連携体制の確立を図る。
- ③ 「英検ESG(小学校)」「英検IBA(中学校)」の効果的な活用や「CAN-Doリスト」形式による学習目標や活用の充実を図る。

## (6) 包括支援プログラム(コグトレオンライン)の実施と研修の推進

- ① コグトレーニングを継続的に実施し、児童生徒の自己効力感の向上を図る。
- ② 生徒指導主事部会、コグトレ部会、町教育支援委員会の充実と関係機関との連携を図る。

## (7) 総合質問紙「i-check」の実施と研修の推進

- ① 総合質問紙「i-check」を年2回実施し、児童生徒や学級の実態を把握するとともに、自己実現を支援するための学級経営の充実を図る。
- ② 保護者やSSW、教育支援センター(なでしこルーム)等の関係機関との連携を図る。
- ③ 中学校区研修会における生徒指導等の情報交換等の充実を図る。

## (8) 福祉分野との連携によるトータルな「子育て」の研究・実践

- ① 福祉課、健康保険課と連携した未就学段階からの切れ目のない支援(ことば等の巡回指導等)の充実を図る。
- ② スクールソーシャルワーカー及びこども家庭支援センター「みらい」、「まちなかコラボ」と連携した配慮を必要とする児童生徒等への支援の充実を図る。
- ③ 「子育て世代包括支援センター」事業との連携の充実を図る。

## (5) 児童生徒の体力向上に向けた体育・健康等に関する指導などの改善

- ① 児童生徒体力等の把握・分析及び各校の「体力向上プラン」活用の推進を図る。
- ② 小学校教科体育のサポート派遣事業、体育専科講師の活用による体育授業の充実を図る。
  - ・体育専科講師(高鍋東小)
  - ・サポート派遣事業
  - 【東小】水泳、器械運動、タグラグビー
  - 【西小】水泳、陸上、タグラグビー



## (11) 教師が安心して授業や子どもに向き合えるような環境づくり

- ① 専門スタッフ等の配置による人的支援(会計年度任用講師6名、学校生活支援員、スクール・サポート・スタッフ、部活動指導員、スクールソーシャルワーカー等)の充実を図る。
- ② 教職員の働き方改革に対する意識改革の推進を図る。



東西小・中学校

たかなべで

「学びたい」、「働きたい」と思う  
学校づくりの「11の挑戦」!



家庭・地域



関係機関・町教委

これまでの教育実践の蓄積



ICT



学習活動の一層の充実  
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

一斉学習

「1人1台の端末」ではない環境

・教師が電子黒板等を用いて説明し、児童生徒の興味関心意欲を高めることができる

個別学習

・全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学習は困難)

協働学習

・グループ活動は可能だが、自分独自の意見は発信しにくい(積極的な児童生徒の発表の場に)

学びの進化

学びの転換

「1人1台端末」の環境

・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる  
⇒児童生徒の一人一人の反応を踏まえたきめ細やかな指導、双方向型の授業展開が可能に

・各人が同時に別々の内容を学習できる  
・各人の学習履歴が自動的に記録される  
⇒一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能に

・一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる  
・各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる  
⇒全ての児童生徒が情報の編集を経験しつつ、多様な意見も即時に触れられる

対応教材等(ソフト)

授業支援ソフト  
「ロイロノート・スクール」  
(導入済み)

AI型教材  
(キュビナ)

「ロイロノート・スクール」



家庭地域



連携

学校全体

①「コグトレ」により、認知機能強化(学習の土台となる「見る力」「聞く力」「想像する力」を身につけさせる。)

②「i-check」による学びの基盤となる学級経営や児童生徒理解に活用

③「たかなべ学力調査」による学力分析及び個別最適化された事後復習教材(自主学習・家庭学習)の活用

